

令和5年度 学校評価書(学校運営協議会用) (計画段階・実施段階)

福岡県立 中間高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 (4月)

評 価
(総 合)

学校運営方針	校訓「向学・忍耐・敬愛」を教育の基盤とし、知・徳・体の調和を重視した教育活動を推進することで、「広い視野を持ち、地域や社会で必要とされる人材を育成する学校」のスクールミッションの達成を目指す。「笑顔と感動のある中間高校～授業で育つ 行事で育つ チームで育つ～」	
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標
1 「新たな学びプロジェクト」による、「自立した学習者を育てる～振り返りとICTを活用した授業改善～」をテーマとする取組は3年間の実践発表などを経て、本校の「主体的、対話的で深い学び」の充実に結びついてきた。今後はその取組を継続し、予測不可能な未来社会で生き抜くための、「生涯学び続ける力」を養成する基盤となる教育活動を実施する。 2 昨年度はウィズコロナ状況で文化祭や体育祭などを実施することができ、豊かな人間性の形成に役立つ学校行事への取組が実施できた。今年度はさらに生徒の主体性や、協働の場でのコミュニケーション能力の向上を目指した教育活動を展開する。 3 「一人一台の情報端末」が正式に導入され、本校の「ICT活用の手引き」をもとにしたICT活用が開始された。教員のICT活用指導力を高め、生徒が授業や探究活動などで実践的な活用ができるよう、教育活動でのICT化を進めていく。 4 創立40周年記念事業により、本校の伝統と未来への展望に改めて意識を高めることができた。今後創立50周年に向けて新しい伝統の創造につながる長期的視野に立った教育活動に取り組む。	○社会に開かれた教育課程による確かな学力の育成	・「知識・技能の習得」を目指す平板な授業から脱却し、観点別評価を効果的に活用した探究的活動を取り入れた授業改善を行う。 ・カリキュラムマネジメントを推進し、「(予測不可能な未来社会で生きるための)確かな学力」を育成するための教育活動の見直しをさらに進める。 ・外部団体や地域社会と連携し、生徒に「広い視野」への気づきを与え、「地域や社会で必要とされる」ための資質や能力の向上を図る。
	○高い志を持つ「自分らしい生き方」を実現する進路意識の向上	・何事にも粘り強く取り組む精神力と失敗を恐れず試行錯誤を繰り返すチャレンジ精神を育てる。 ・進路研究や職場体験など様々な進路体験を通してキャリア教育を推進し、高い志をもち、社会的・職業的自立を支援する。 ・本校での中心的取組であるSDGs活動をさらに展開していくことで、生徒1人1人がより良い未来社会の実現に貢献できる人材の育成を目指す。
	○様々な価値観や立場を認め、協調して生きる資質・能力の育成	・多様性を受容できる感受性を持ち、人権意識に基づきいじめや差別を絶対に許さない態度を育てる。 ・成年年齢の引き下げに伴い、主体的に社会の形成に参画する良識ある態度を育て、他者と協働できる基盤を形成する。 ・「ウィズコロナ」などでの新たな生活様式を身につけ、公共的な認識の下で日々の生活を充実させる行動力の育成を目指す。
	○地域社会へ積極的に貢献する行動力の育成	・「不易五項目」を実践することで、品性や徳性を高め、地域社会で信頼される人間性を身につける。 ・授業、部活動、学校行事等で主体的・協働的な取組みを学び、社会参画に必要なスキルを身につける。 ・主権者としての自覚を育てていき、責任や権利や機会を平等に分ち合える社会を実現する人材の育成を図る。

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価(3月)			次年度の主な課題
教務部	授業規律と学習習慣の確立	不易五項目(挨拶、清掃、公共物の保全、時間厳守、傾聴姿勢)を常に念頭に置いた指導を行い、特に「時間厳守」「傾聴姿勢」により授業規律を身につける指導が行われるように働きかける。				
		出席率の向上を目指し、安易に遅刻・欠席をさせないための方策を徹底するとともに、家庭・学年・教科・部活動等関係者と連携を密にして指導にあたる。特に欠課時数が多くなった生徒に対して、組織的に指導を行う。				
		教室内の掲示物を整理し、荷物や鞆の整理整頓を常に意識させ、学習環境を整備する。また、一人一台端末の利用方法について、ICT活用推進部と連携してICT活用能力向上の指導を徹底させる。				
	学力の向上	授業中における演習や実習時間を確保することで、論理的思考力や問題発見力などについて能動的な学習態度を育てるとともに生徒の主体性を伸ばし、確かな学力の定着を図る。 予習・復習の習慣化を目指し、一人一台端末を積極的に利用した計画的な家庭学習時間を確保する。そのために学年・教科と連携を図り、適切な課題を課すことに努める。 観点別評価に重点を置き、評価内容を生徒と共有することで評価活動を指導の改善に生かし、指導の質を高める、いわゆる指導と評価の一体化をさらに進める。				
生徒部	自己指導能力の向上	学校行事を通して、リーダーシップやフォロワーシップを育むとともに、共感的人間関係の育成を図る。				
		教育活動全般において、不易五項目を徹底させることで、豊かな人間性を育むだけでなく、自分で考え適切に行動する力を育む。				
		部活動加入率85%以上を目指し、部活動生による学校の活性化を図るとともに、ボランティア活動などの校外活動に積極的に参加させることによって、生徒の自己有用感を高めていく。				
	健康における自己管理能力の育成と人権意識の高揚	教育相談の充実を目指し、生徒、職員の心身の健康増進を図るため情報の共有と外部機関との連携を強化する。 普段の学校生活や毎月のいじめに関するアンケートから生徒が発するサインに早期に対応することによって、いじめの未然防止に努める。 すべての学校行事で人権意識を高める啓発活動を行うことで、自己有用感を育むと共に他を認める姿勢を育み、差別やいじめを許さない環境づくりを心がける。				
進路部	進路意識の向上	【計画力】早期に進路目標を設定し、具体的な学習計画をたて、粘り強く努力を継続するチャレンジ精神を身に付けさせる。				
		【継続力】進路実現のため試行錯誤しながら粘り強く努力を継続する精神を育成する。				
		【ツール活用力】自分に必要な情報を余裕を持って適切に収集したり、学力をつけたりするためにICTや進路資料を有効活用できるようにする。				
	進路実現のために必要な資質や能力の育成	【思考力・判断力・表現力育成】小論文・グループディスカッション・面接指導を通して思考力を育成し、自分の言葉で適切に表現し、他者へ正しく伝達できる能力を養う。 【情報処理力育成】授業やHRなどの場を効果的に活用し、多くの情報を活用する場を増やす。そして必要な情報を適切な手段で収集、整理、処理する能力を育成していく。 【言語能力の育成】他者の意見を傾聴し、立場や背景、状況を踏まえて自分の頭の中で情報を処理し、自分と関連付けて思考し、論理的に言語によって表現できる能力を養う。				

学校関係者評価

評 価
(総 合)

自己評価は

- A : 適切である
B : 概ね適切である
C : やや適切である
D : 不適切である

項目ごとの評価

学校関係者評価委員会からの意見

指導力向上部	「主体的、対話的で深い学び」につながる授業改善の推進	相互授業参観について、事前に授業の目標や手立てを明確にした上で公開し、協力的な意見交換活動を通して、授業改善につながるような仕組みを整える。						
		授業アンケートの効果的活用に取り組む。授業の課題が明確となるよう質問項目を検討し、改善への意識が向上し、行動変容へとつながるようにする。						
		生徒自身の授業への振り返りを通じて、「主体的・対話的で深い学び」につながるような実践的指導力の向上を目指す。						
	キャリアアップに資することができる校内研修会の工夫	各教員の実態やニーズを把握し、目標・ゴールが明確な、教員のキャリアアップにつながる研修会を企画・実施する。						
		キャリアに応じた基本研修の内容を学校に還元できる機会を設定する。						
		「福岡県教職員育成指標」を基に、目標設定や自己評価表の作成を促す。						
キャリアサポート部	進路目標の実現につながるキャリア教育の充実	キャリア意識形成や、将来設計を考える時間をHRや総合的な探究の時間を計画的に実施し、生徒の進路目標につながる働きかけを行っていく。						
		進学や就職へ向けた具体的な取組の基盤となる、「自己のあり方や生き方」、「目指す人生のあり方」などを考えることができる学習の機会を可能な限り提供する。						
		進学や就職へ向けた進路部の取組に資することができるように、その基盤である「自己のあり方や生き方」、「目指す人生のあり方」などを考えることができる学習の機会を可能な限り提供する。						
	学校外の組織や機関と連携した協働的、探究的活動の充実	朝日新聞出前授業やマイナビ活動等を通して、グループ活動や学年及び学校発表の機会を増やし、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成に努める。						
		総合的な探究の時間を中核としたSDGs活動等を通して、地域に貢献することができる人材の育成という学校の教育目標の実現に努める。						
		各種のコンテストやコンクール、取組に積極的に参加させることで、資格取得や表彰される機会を与え、自己肯定感や自己有用感の向上に努める。						
ICT活用推進部	教育活動でのICT活用	福岡県立学校が生徒に身に付けさせる資質・能力5C(クリティカルシンキング、クリエイティブシンキング、コミュニケーション、コラボレーション、コントリビューション)に対応するための環境整備を行う。						
		電子黒板やSchool Engine、Chrome Bookなどの活用について適宜情報を発信し、指導力向上部と連携して教職員のICT技術向上を図る。						
		生徒の一人一台端末設置後の今後の利活用法を研究するとともに、情報モラル教育、情報セキュリティ教育の充実を図る。						
	各業務に関連するICTについて環境整備	教職員間でICT活用推進に係る業務の負担軽減を図るとともに、情報交換を密にしノウハウを共有する。						
		指導力向上部やICT支援員と連携して適宜職員研修を行い、ICT技術の向上を図りつつ機器の利活用を進める。						
		ICT支援員と協力しながら使い方の難しい機材については、使用法マニュアルを随時改善する。また移行期におけるBYODの管理を徹底する。						
広報図書部	中学生、在校生の保護者、地域への広報活動(庶務的業務の丁寧な遂行)	中学校訪問や中間高校オープンスクールに全職員で取り組み、中学生や保護者に中間高校を選んでもらえるような、職員による広報活動への意識を高める。						
		上記の本校の魅力発信の中核となる学校広報紙「なかまのなかま」の充実を図り、学校HPなどへのアップロードなども含め、SDGs活動や地域との連携事業について積極的な情報発信を行う。						
		校内の教員が教育活動に尽力しやすくなるような庶務的な業務について、細やかな配慮を行う。						
	読書啓発活動の充実	「子ども読書の日」等を利用し、図書委員会を中心に読書啓発活動を行う。また若年教員による読書体験談を盛り込んだ読書指導を計画的に実施する。						
		教員に対して、小論文学習など進路指導に役立つ蔵書の充実を図る。また総合的な探究の時間に役立てることができるような蔵書の周知をはかる。						
		朝の10分間読書の徹底を図るとともに、生徒による「私のおすすめの本」の紹介など、生徒の読みたい気持ちを喚起する様々な取組を企図する。						
保健環境部	保健衛生指導に関する活動の充実	「ウィズコロナ」での新たな生活様式を踏まえ、各クラスにおいて、保健委員を中心に健康観察を積極的に呼びかけ、感染症対策を引き続き行う。						
		保健委員を中心に「保健だより」の作成を一層充実させ、健康・安全などへの意識を高める。						
		身体計測をはじめ各検診においては、各分掌と連携を図りながら先生方に協力をお願いして円滑な計画、実施を行う。						
	環境美化の徹底	毎日の清掃活動を通して不易五項目の一つである清掃への意識を高める。						
		校内のSDGs活動を踏まえ、美化委員会を中心に、清掃活動の徹底やゴミの分別・減量の呼びかけを積極的に行う。						
		各授業における教室の換気の徹底を保健委員・美化委員が中心に呼びかけて衛生面の徹底を図る。						

